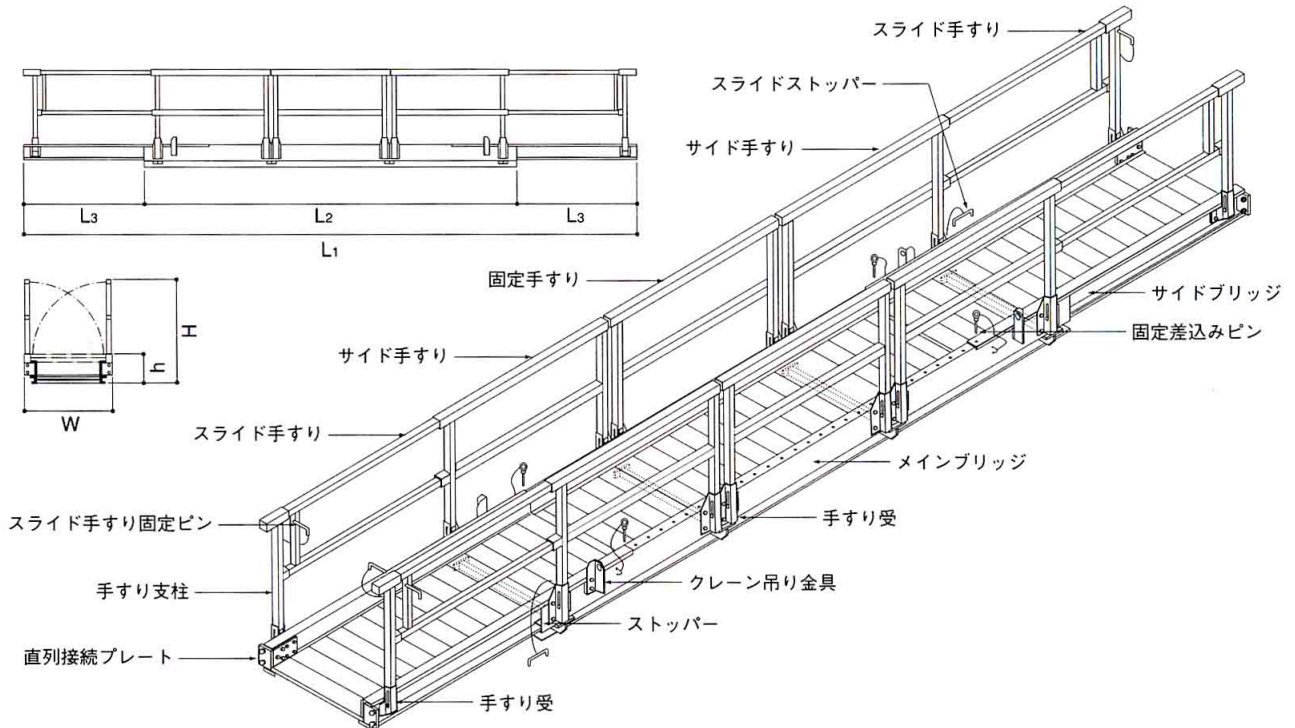


スカイブリッジ

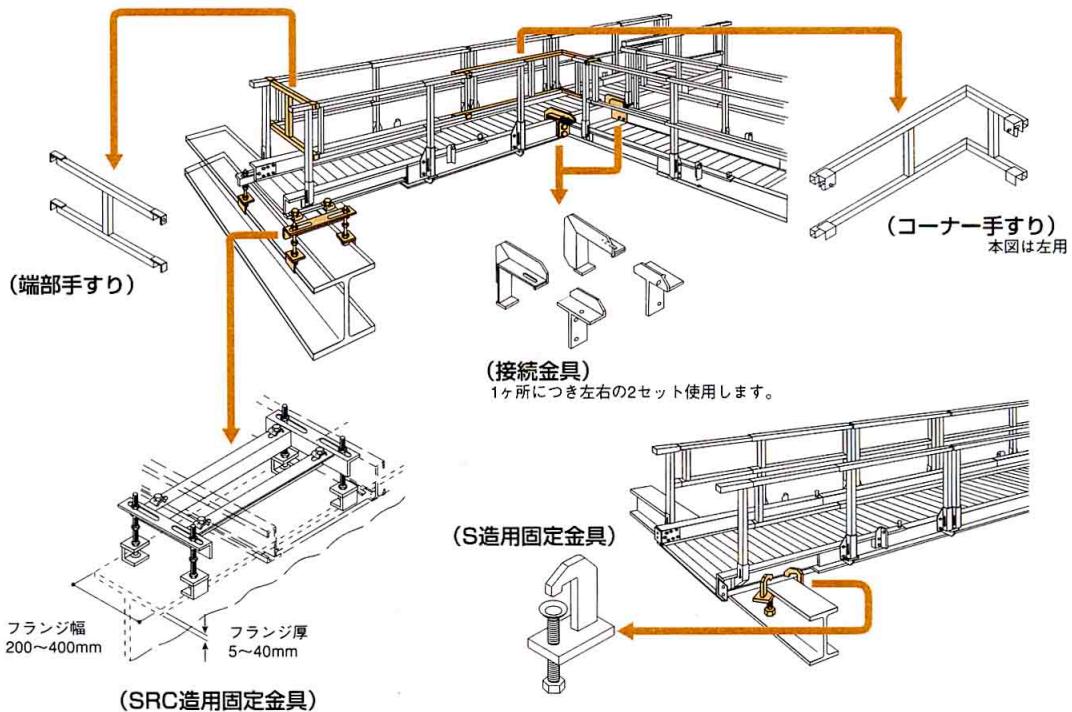
アルミ合金製仮設通路

*関連商品 P74 参照

仕様



記号	全長 (L ₁) ^{m/m}	メインブリッジ長 (L ₂) ^{m/m}	サイドブリッジ長 (L ₃) ^{m/m}	全巾 (W) ^{m/m}	全高 (H) ^{m/m}	折たみ高 (h) ^{m/m}	質量 ^{kg}
ASKB 43-66	4,350~6,600	4,000	1,300	912	995	310	165
ASKB 63-96	6,350~9,600	6,000	1,800	912	995	310	220

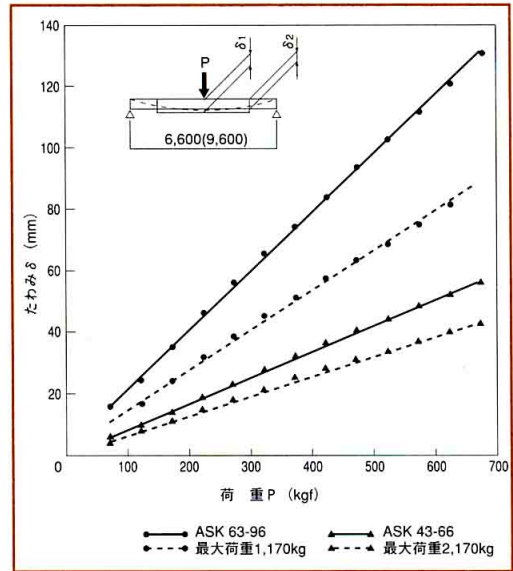


架設計画

●架設条件と許容積載荷重

接続条件	架設条件		許容積載荷重	備考
	架設例	支持間隔(mm)		
		ASKB43-66	ASKB63-96	
単独使用				
直列接続		$Q \leq 6,600$ $Q_1 \leq 1,300$	$Q \leq 9,600$ $Q_1 \leq 1,500$	2.94kN (300kg) /スパン
		($Q_0 = \text{H鋼}$ フランジ幅 $Q_1 = \text{張出量}$)	($Q_0 = \text{H鋼}$ フランジ幅 $Q_1 = \text{張出量}$)	
直交接続		$Q \leq 6,600$	$Q \leq 9,600$	2.94kN (300kg) /ブロック

●荷重によるたわみ量の変化



端部は必ず
4点固定し
てください

●架設上の注意事項

[1] 荷重制限

スカイブリッジの架設は「架設条件の許容積載荷重」の表に従い、表以上の荷重とならないようご計画ください。

[2] 直列接続

直列に接続される場合は、支持梁上に接続点がかかるようにご計画ください。

割付上、やむをえず接続点が支持梁上にこない場合は、右図のように張り出し量に制限がありますのでご注意ください。

[3] 直交接続

接続部は必ずメインブリッジの桁に接続金具を使用し、確実に固定して下さい。

また、接続部での手すり間隔が著しく広い場合は、コーナー手すりをご使用ください。

[4] 端部

連絡路に接続しない最端部には端部手すりをご使用ください。

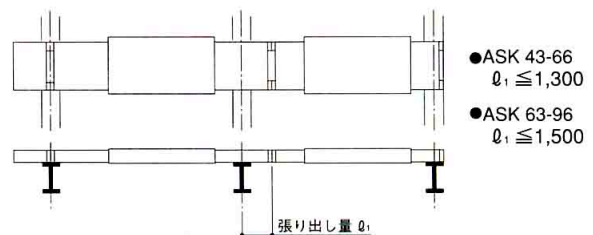
[5] 揚重

クレーンによる吊り上げや解体・移設時の吊り降ろしは、4ヶ所のクレーン吊り金具を利用し、本体に直接ワイヤロープ等をかけないでください。

手すりを立てたまま行なうときは、手すりに荷重がかからないようにワイヤーを掛けてください。

なお、スカイブリッジの吊り上げは1台づつ行なってください。接続したままでは吊り上げられません。

直列接続部での張り出し量



[6] 端部の固定

① サイドブリッジが支持梁から張り出さない場合

S造用固定金具4個、またはSRC造用固定金具の4ヶ所の固定部で確実に固定してください。

② サイドブリッジが張り出す場合

支持梁との固定は上記①と同じです。但し、サイドブリッジの張り出し量は直列接続の場合と同じ制限をお守りください。

また、張り出した反対側は固定金具等により、はね上がりを防止してください。

[7] サイドブリッジのスライド防止

トラックでの運搬やクレーン等で移動させる場合は、必ずサイドブリッジ固定差込みピンまたはスライドストッパーでメインブリッジに固定してください。